

富士見市価値共創プラットフォーム

『SDGsフジミライテラス』

モデル事業検討会

令和8年5月21日（木）



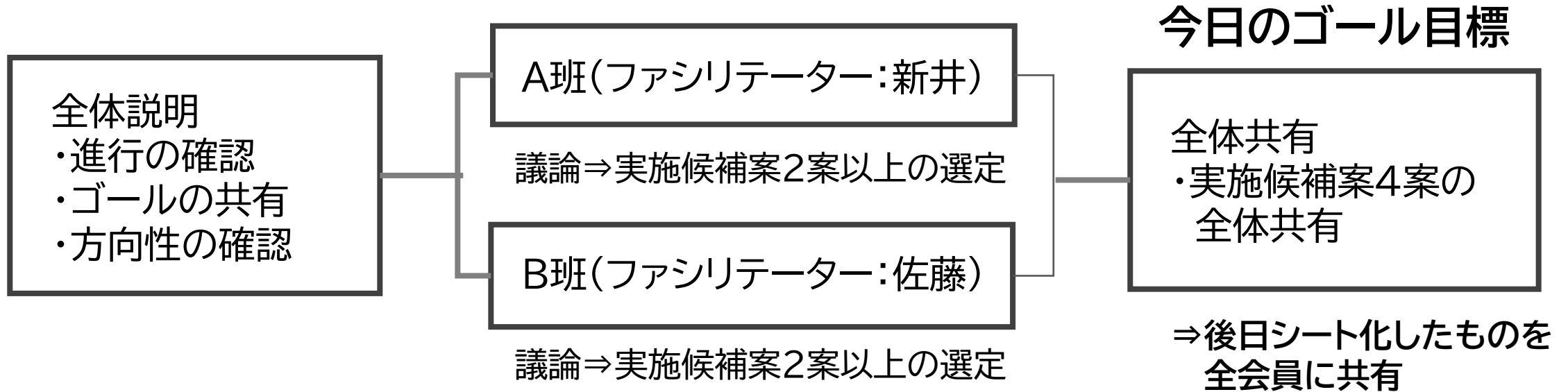


- 1.開会
- 2.本日の進行とゴールの共有
- 3.前回検討会の振り返りと次回の方向性
- 4.モデル事業の検討
- 5.閉会

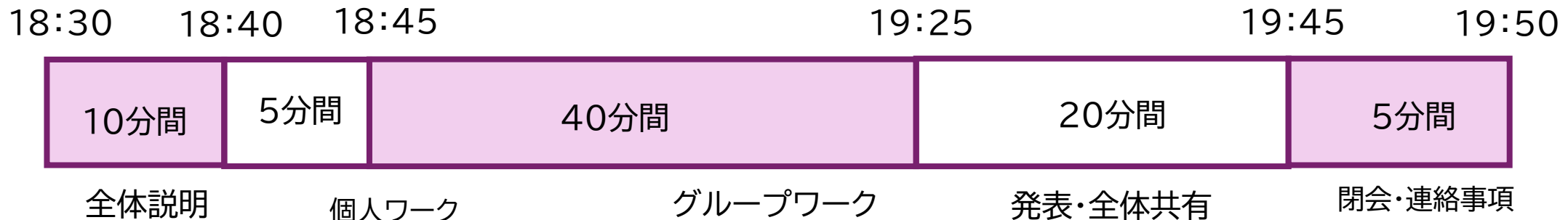


本日の進行とゴールの共有

■全体の流れ



■タイムテーブル案



前回検討会の振り返りと次回の方向性



前回結果振り返り	次回モデル事業の方向性
<ul style="list-style-type: none">● 4/23検討会意見(一部抜粋)<ul style="list-style-type: none">・高校生の関心やニーズを調査した方がよい・生徒が企画できるもので実施できるとよい・モデル事業の間隔を1年半、2年など待たず毎年継続的に実施できるとよい・キャリア教育後にビジネスアイデアコンテストを行い、グランプリは市で事業化できるとよい・家庭科などの部活と連携して商品開発などの原価計算、利益などを教えてマルシェにつなげるのはどうか。	<ul style="list-style-type: none">● 生徒側も受講するだけでなく、企画参加できる双方向型の事業● 間隔を開けずに実施していきたい ⇒遅くとも年度内の実施● 中長期的にはキャリア教育後のマルシェに展開できる事業

短期的な取組……キャリア教育の継続

中長期的な取組…キャリア教育後にマルシェに展開を目指す

モデル事業の検討



モデル事業（キャリア教育）検討シート

事業名：

事業内容（実施時期、手法、会場など）

事業の目的・ねらい

事業の対象者

想定される課題・懸念点

モデル事業の検討 (参考：今後の実施事業について)

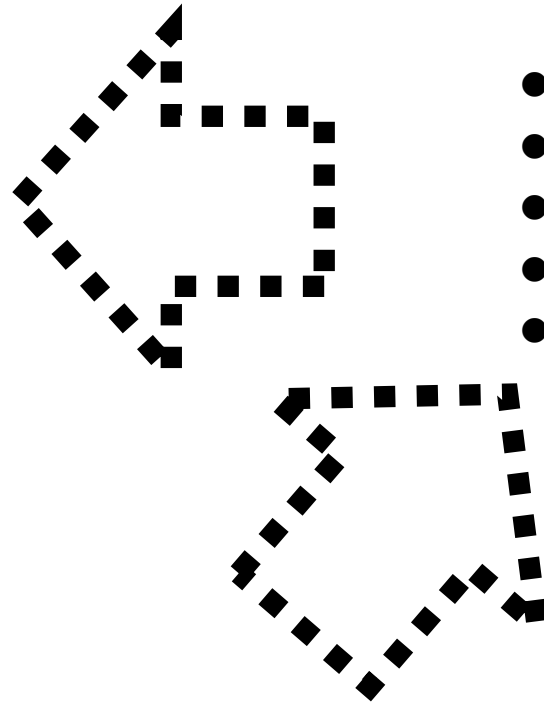


あるべき姿につながる取組

- 高校生向けキャリア教育
 - 小学生・中学生向けの社会教育
 - パートナー企業への見学ツアー
 - 勝瀬原記念公園でのマルシェの継続
 - 他地域での公園マルシェの開催
 - ブルーベリー農園の整備
 - 月1回の100人会議
- etc

解決すべき課題

- 市民総活躍の推進
- 地域経済の活性化
- 自然環境の保全
- 住みたい・住み続けたいまちづくり
- 将来における活力の向上



2030年のあるべき姿

【社会面】
市民総活躍
(誰もが活躍できる
まち)

【経済面】
地域経済の活性化

【環境面】
脱炭素社会の構築

モデル事業の検討 (参考：令和7年度モデル事業の振り返り)



テーマA

高校生に向けたキャリア教育

効果

- ・実施する「意義」や「目的」が明確になり共有できた。
- ・「目的実現」を可視化する形で施策内容を詰めることができた。
- ・就職のためではなく「社会で働く」をイメージしてもらえた。
- ・生徒が多様な職種に触れたことで、将来設計への意識向上が観られた。
- ・高校生が地域とつながったことで、地域に目を向けるきっかけとなった。
- ・高校生のアンケート結果からも、良い内容であったと判断できた。
- ・イメージ通りの反応（そこまで真剣ではなかった）であったと思う。
- ・社会の生の意見を共有し、将来を考えるきっかけとなった。
- ・それぞれが機動的に協力できたことで、成功できたと感じた。
- ・メンバーの結束管が生まれた。
- ・生徒との温度差を感じた。
- ・多くの職種が参加し、特徴のある事業となった。
- ・市職員の主体的な関与がないと成立しないと実感した。
- ・検討会の時間に対し、単発イベントであったことも含めて、十分な手ごたえがあったとはいえなかった。
- ・実施内容、時期ともに有意義なものとなった。

課題

- ・持続的に活性化していくために、定点的なデータ計測が必要。
- ・単年度で終わらせるのではなく、発展的な取組として考えていくべき。
- ・全生徒に十分に響いたものとは言えなかった。
- ・自己満足で終わらないように、どのようにつなげていくかのイメージが持てていなかった。
- ・高校生との意見交換にはもう少し時間があってもよいと感じた。
- ・参加したメンバーの力によるものが大きく、継続するためには属人的にならないようにする必要がある。
- ・もっと早い段階から実施した方が子供の裾野がさらに広がると思います。

テーマB

自然公園を活用したふじみSDGsマルシェ

効果

- ・地域住民の交流と地域経済の活性化に寄与した。
- ・多くのステークホルダーに参加企業やイベントを知ってもらうことができた。
- ・会場に多くの来場者があり、充実したイベントとなった。

課題

- ・屋外実施の場合、天候に左右されやすいので、代替案の検討も必要。
- ・自己満足で終わらないように、どのようにつなげていくかのイメージが持てていなかった。
- ・事業実施後に全体での振り返り（評価）機会がなかった。
- ・事業実施後にメンバー間での意見交換を実施すべきであった。
- ・継続実施が判断できない中で、テント購入等の負担については疑問が生じた。
- ・既存団体のイベントに参加となったため、提案が通らず、結果として既存イベントの盛り上げとなってしまった。